

赤ちゃんにおすすめの絵本（0・1・2歳）



赤ちゃんにおすすめの絵本（0・1・2歳）



『もうねんね』

松谷みよこ/文 瀬川康男/絵 童心社
「いぬもねんね ひとりでねんね」やさしい文と絵を読むうちに、赤ちゃんもずっと夢の中へ。



『にこにここここ』

川之上英子・健/文 北村人/絵 アリス館
「にこにこ ねこねこ もももこ こここ」読んで楽しい言葉のリズム。はじめての言葉遊びにピッタリです。



『ぎゅうぎゅうぎゅう』

おーなり由子/ぶん はたこうしろう/え 講談社
おかあさんとぎゅう、おふとんにぎゅう。ぎゅうにはあたたかさや幸せがいっぱいつまっているね。



『くだもの』

平山和子/作 福音館書店
これは写真？絵？と迷うほど、繊細なタッチで描かれたくだもの。思わず手を伸ばしてしまいます。



『しろくまちゃんのほっとけーき』

森比左志・わだよしおみ・若山憲/著 こくま社
しろくまちゃんといっしょにホットケーキを作ります。後片付けも忘れずに。



『つみき』

中川ひろたか/ぶん 平田利之/え 金の星社
ひとつ、ふたつ、みっつ。どんとつみきを積んでいきます。最後は…。



『ころころころころ』

みなみじゅんこ/作 のら書店
たまごからかえったヒヨコたち。お母さんニワトリが大好きで、どこへ行くのも一緒です。「ころころころころ」は、北海道のわらべうたです。



『もこもこもこ』

谷川俊太郎/作 元永定正/絵 文研出版
「もこもこ」から始まる言葉のリズムと色鮮やかな抽象が印象的な絵本。不思議なストーリーを楽しんでください。



『おにぎり』

平山英三/文 平山和子/絵 福音館書店
本物そっくりの絵に引き込まれて、みんなにっこりしてしまいます。



『りんごりんごりんご
りんごりんごりんご』

安西水丸/著 主婦の友社
「りんごりんごりんご」りんごの冒険に合わせて、繰り返されるリズムが楽しい絵本です。



『くらいくらい』

長谷川摂子/文 柳生弦一郎/絵 福音館書店
まっくらくらくら… くらーい中にだれかいるよ。だれかな？だれかな？



『でんしゃくるかな』

きくちちき/作 福音館書店
電車を待つワクワク感、来た時の喜び。動物たちがあまりにも嬉しそうで、読んでいる方もいっしょになってバンザイしてしまいます。



『はんぶんこ』

杜今日子/さく 福音館書店
「はんぶんこ」、「いただきます」のことばの楽しさ。分かち合ううれしさや幸せが詰まった絵本。はんぶんこするととってもおいしいね。



『ペンギんたいそう』

齋藤禎/作 福音館書店
ペンギン親子のかわいい体操姿に、思わず体が動いてしまいます。



『ぼんちんぱん』

柿木原政広/作 福音館書店
「ぼんちんぱん」のリズムに合わせて子どもたちの大好きなパンが登場します。



『おひさまでるよ』

齋藤禎/さく ほるぷ出版
でるよでるよ！！キラキラおめめのにっこりおひさまの登場。ポカポカふらふらと嬉しくなっちゃう1冊です。

3・4歳におすすめの絵本

『ドアがあいて…』

エルンスト・ヤンドゥル/作
ノルマン・ユンゲ/絵
斉藤洋/訳
ほるぷ出版

暗く静かな病院の待合室。そこに座っている5個のおもちゃたち、1個ずつ呼ばれ不安そうに部屋に入っていくはず。そして最後は僕の番！ドキドキ。



『ふしぎなナイフ』

中村牧江・林健造/さく
福田隆義/え
福音館書店

ナイフが、とける、ほどける、ちぎれる、のびて、ちぢんで、ふくらんで。次々に変わるナイフの姿に、目がはなせなくなる一冊です。さて、最後はどうなるのかな？



『どしゃぶり』

おーなり由子/ぶん
はたこうしろう/え
講談社

暑い夏、急に雨が降ってきた。傘をたたく雨がたいこのようだ。だんだん雨がひどくなってきて…。本当に土砂降りの中を遊んでいるような気持ちにさせてくれる絵本です。



『やまなしもぎ』

平野直/再話 太田大八/画
福音館書店

病気のお母さんのために山梨を取りに行く三人の兄弟。上の二人が帰ってこないで、とうとう三番目の三郎が行くことに…。「ゆけっちゃかさかさ」などの言葉も力強い昔話の絵本です。



5・6歳におすすめの絵本

『じゅんばん じゅんばん じゅんばんですよ』

accototo ふくだとしお+あきこ/さく
大日本図書

暖かくなると花が咲き、さなぎはチョウになりました。雨が降ると、カエルやカタツムリは嬉しそう。たくさんの生きものをとおして、季節の移り変わりを感じられる絵本です。



『王さまと 九人のきょうだい』

君島久子/訳 赤羽末吉/絵
岩波書店

子どもが欲しいと思っていた老夫婦のもとに生まれた九人の男の子。なんと、特異な力をもって生まれたのです。その九人が、王さまから出される無理難題をそれぞれの力を使って解決していく中国の昔話。



『おおかみの おなかのなかで』

マック・バーネット/文
ジョン・クラッセン/絵
なかがわちひろ/訳 徳間書店

おおかみにばくくと食べられてしまったねずみ。おおかみのお腹の中で「もうおしまいだ」と泣いていると、「しずかにしてくれよ」と怒鳴る声が聞こえます。怒鳴るのはいったい誰？



『ボルカ はねなしガチョウのぼうけん』

ジョン・バーニンガム/作
木島始/訳 ほるぷ出版

ガチョウのボルカは生まれた時から羽がはえていませんでした。冬になり旅立つ他のガチョウを涙に見送るボルカ。そしてひとりぼっちになったボルカは…。



赤ちゃんへの読み聞かせQ&A

Q. 何ヶ月から読み始めればいいのか？

A. 早すぎる、遅すぎる、ということはありません。読みたい時が、始め時。お父さん、お母さんと赤ちゃんが気持ちのいいときに、ゆったり楽しんでみてください。

Q. 絵本を読んでも反応がないのですが？

A. 絵本に興味を示さないからといって、何も心配することはありません。絵本を「読書」ととらえないで、親子のコミュニケーションを楽しむひとつと考えてはかまいませんか。何ヶ月かたつとまったく違う反応が返ってくることも多いものです。一度読んでみて興味がなさそうなら、しばらくたってからまた読んでみるのもいいかもしれません。

絵本選びで迷ったら、いつでも絵本館にご相談ください。

絵本は赤ちゃんと世界をつなぐ『まほうのとびら』です。お父さん、お母さんとたくさんのおぼろを開いて、一緒に楽しい時間を過ごしてください。さあ、本のとびらを開けて、ひろい世界に出かけましょう。

このリストに掲載されている本は、空とこども絵本館、小松市立図書館で借りることができます。どうぞご利用ください。

◆小松市立空とこども絵本館
〒923-0904
小松市小馬出町10番地3
電話(0761)23-0033

◆小松市立図書館
〒923-0903
小松市丸の内公園町19
電話(0761)24-5311

毎月23日は
「こまつ市民読書の日」



◆南部図書館
〒923-0303小松市島町又43
電話(0761)43-1222